

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100166		
法人名	医療法人至誠会		
事業所名	グループホームあかり		
所在地	佐賀県佐賀市本庄町大字本庄264-1		
自己評価作成日	平成30年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年11月20日	外部評価確定日	平成31年4月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>建物の近くには住宅地、建物の前には託児所があり地域の皆様の生活を感じながら落ち着いた環境の中でお過ごしいただけます。また、行事の際には託児所の子供たちを招待し、交流を行っています。 日常生活では、入居者様に調理や洗濯物たたみなどの家事を行って頂いており、一人ひとりが役割を持てるよう支援しています。当施設の廊下には入居者様と職員が一緒に作った季節の貼り紙を掲示しており、季節を感じて頂けると思います。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>佐賀市内の環状南通りの208号線と佐大南通りの往来の激しい地の利に法人のなゆたの森病院がある。一步入れれば静かな住宅地である。その裏に二階建ての施設があり、一階には小規模多機能このはな・巡回訪問えん・二階にグループホームあかりがある。入口前には託児所があり、園児の姿や可愛らしい声に元気を貰い、交流もある。建物の真中にリビングがあり、キッチン是对面式又事務所はガラス張りで、どこからも入居者と職員のお互いの顔が見えるようになっている。3月に引っ越した新しいグループホームである。地域に根差し地域と共に、と言う意気込みが感じられるホームである。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で楽しく・安心・安全に過ごせるように支援します」という理念をあげている。 職員とどこに貼ったら毎日見るか話し合い、理念を見やすいところへ掲示している。	理念は開設当時のものに、一年前「住み慣れた地域で」と言う文言を付け加えた。一年間の目標として三項目を掲げており、職員がよく目にする所に掲示している。1.家族様、地域の方と交流を図り、地域の一人として過ごしていたように努めます。2.ひとり一人のニーズにあったケアを提供できるように努めます。3.他事業所、他職種と連携を図り、安心して過ごしていただけるよう努めます。地域と交流するためには、まずホーム内から外に出ることからと、散歩や買物が増えたことに、目標が浸透してきているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の老人クラブの方々を呼んで事業所見学などを行なっている。また、東与賀中学校より職場体験を受け入れている。	自治会長からの情報を得ている。老人会の方々をホームに招き、認知症の勉強会を開いている。その延長でホーム内の見学をして貰っている。ホームを一步出たら託児所があり、夏祭りや敬老会の行事に招待したり、されたりの交流を図っている。管理者は地域との繋がりの大切さの意識は高いが、今年3月に引っ越したばかりで、地域の行事等への参加はまだできていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ドクターに協力してもらい地域住民に向けた講演会を企画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議をおこなっており、サービス内容や入居人数、課題について報告し、課題解決に向けての助言を頂きサービス向上に取り組んでいる。	会議には市職員、自治会長、階下の小規模多機能、巡回訪問の管理者、家族の代表の参加で時間は30分程である。地域からと地域への双方の意見が出る貴重な時間である。老人会、民生委員、近隣住民の参加が増えると尚繋がりができると思われる。自治会長からもたらされた地域の清掃に管理者は参加して、広報活動を積極的に行い、キャラバンメイトの講座開催の予定も取り付けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点等あれば、電話連絡や行政の窓口を訪ね事業所の状況や課題解決に向けた話し合い等を行っている。	市の担当者は運営推進会議のメンバーであり、相談事は電話であったり、直接出向く時もある。この頃の相談では料金値上げの事案があり、アドバイスを貰った。その後の報告も電話があり、真摯に向き合ってくれ、良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や院内勉強会で身体拘束について学ぶ機会がある。 ドアが暗証番号を入力し開閉するものになっているため日中の時間(8時~17時)のみではあるが、ロックを解除、センサーを設置し、自動ドアを開放している。	拘束の弊害は職員も承知している。法人の身体拘束委員による研修、勉強会もしている。入居時に家族には説明もし、同意も得ているが、基本としては、拘束はあるべきではないことを前提としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会、研修で高齢者虐待について学ぶ機会がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年齢層が高くなり、家族様より相談を受けることも出てきており、家族様から問い合わせ等あれば助言を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の段階から当施設についてマイナス面も含め説明を行ない、契約の際も家族の話に耳を傾け、質問等に対しても出来る限り説明を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時などは、日常の様子を伝えるようにしている。 家族様から要望等あり早急に対応するように心がけている。 公的な苦情受付窓口も重要事項説明書に記載し、契約時に説明を行なっている。	家族の来所は全くないことはない。苦情箱も設置しているが、投函されてることはない。入居時に外部に苦情窓口があることを伝えている。家族の面会のおり、日常生活の報告や世間話しをし雰囲気作りをしている。その中の一つに職員の顔と名前が分かりにくいとの声に、職員の下承を得て廊下の掲示板に写真入りで出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中で意見や提案を話してくれている。月に1回の会議にて出された意見や提案に対して、出来る限り反映できるように取り組んでいる。	会議は月一回であるが、職員からの意見は活発である。行事のこと、入居者のケアに関する事など多岐である。ケアの見直しに繋がった例もある。研修によっては指名であったり、自己申告であったりするが、研修を受けた職員は必ず報告をする。欠席者には資料を渡し共有することとしている。休憩・退社時間・休日についてもキチンとされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生が充実しており、残業もほとんどないため働きやすい環境が整備されている。また、年に2回評価をつけ、結果が個人に渡される。 院内アンケートもあり、個人の思いを答えることができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内では等級別研修があり、外部の研修にも参加ができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんど行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された際、再度要望等を本人に確認している。本人が不安なこと等を話しやすいようにアセスメントの生活歴などを参考に世間話を交え話に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に入居の際にご家族から不安なこと等が聞かれるため、極力時間をかけ、要望等に耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には家族様と一緒に荷物などを整理されることが多く家族様が帰られた後、本人の不安は増大することが考えられるため、本人が不快にならないように声掛け等を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームと言う事もあり、調理、注ぎ分け、洗濯ものたたみなど入居者様を中心に職員と行なって頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会や外出等、家族が来設されることが多くあり、協力を仰いだ際にも快く引き受けて頂ける家族様が多い。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様が外出の際に、なじみの場所や知人の方と関わる機会を設けて頂いている。当施設にも知人の方が足を運んでくださり、関係を継続されている。また、外出の際は出来る限り馴染みの場所や馴染みのことを行なっている。	訪問理・美容がある。以前からの通いの美容院を利用している入居者もある。友達や親類の訪問もある。自宅がどうなっているか心配だと言われる入居者には、家の近くまでドライブを行っている。入居者の安心に繋がればとの思いである。盆・正月の帰省や法事への参加等は家族の支援をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数であるため、関係は把握しやすく、必要に応じて席を移動して頂き、入居者様同士が支え合えるような席順などを配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係が途絶えているのが現状である。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居の際やケアプラン作成の際など本人様の要望を伺ったり、表情等をみたり、ご家族様からの要望や希望などを聞くように努めている。入居後は本人様と話す機会を定期的に設けている。	思いを良く聞かれるのは、お風呂で寛いでいる時や一対一で話しができていく時である。発語の少ない入居者には、傾聴に努めたり、家族からの情報により話題を振るようにしている。聞き取れた情報は、経過記録に残し、職員全員が共有し、ケアに活かしている。ドライブに出かけた時の食事も楽しみの一つになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族と見学の後日に話す機会を設け、本人が仕事をされていた時や退職されたあとの話などの生活歴を伺うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日々の状態を観察し、本人とお話をしたり、職員より、状況の報告を受け現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族が評価や見直しの会議に参加することは難しいが、担当者会議を中心とした意見などを話し合う他、何か気になることがあれば、随時職員から話を聞き、介護計画を作成している。 また、面会のときなどに家族様と話をするようにしている。	ケアプランの設定は、三ヶ月、六ヶ月、一年としているが、入居時には、三日・一週間と短く経過を見ている。変化があれば記録を残し、見直しは臨機応変にしている。家族には電話や面会時に要望を聞くが、現状維持での希望が多く聞かれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の様子や日中の様子や気づきなどを記入するようにしており、特に気になることがあればその都度記録、報告を行っている。個別記録、申し送りノートは出勤した際には確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	見学の際や、入居後も要望やニーズに合わせて、問い合わせがあれば同法人の他の事業所を紹介している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所との交流はあるが、入居者様との交流は図れていない		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人であるなゆたの森病院が協力医療期間であり、月に2回往診に来ていただいている。 その他の眼科や泌尿器科などはご家族に協力してもらい定期的に受診されている。状況に応じて職員が同行し適切な医療を受けられるように取り組んでいる。	隣接する法人のなゆたの森病院があり、月2回の往診がある。敢えてかかりつけ医の変更を進めたりはしない。これまでのかかりつけ医、継続の入居者もある。家族の受診には経過や状態を記したものを渡している。職員の付添いには、受診理由の連絡を家族にし、結果報告もしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1～2回健康チェックにきて頂いており、気になることがあれば報告しており、その他で何かある場合もその都度報告し連携を図っている。 必要に応じて看護師が資料を作ってくれたり入居者様が安心して看護を受けられるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人に入院する機会が多いため、ソーシャルワーカーと情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を契約時に説明・同意を取っている。 終末期については意思確認をとっており、本人の状態に応じて病的な部分では医師、看護師等から説明してもらい、それを基に事業所で出来る事、できないことについては説明を行いました承して頂いている。また、方針なども共有している。	看取りの経験はない。希望があれば終末も考慮に入れている。職員の力量が問われるが、看護師からのマニュアルがあり、勉強会を重ね、安心して迎えられる用意はある。入居時は重度化に向けての指針もあり、説明もしている。何回も話し合いを重ね、安心して最期が迎えられるような支援を心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練などは出来ていない。緊急時フローチャートを作成し、職員全員が急変などに対応できるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	病院や同法人の施設と合同で年に2回避難訓練をおこなっており、実際に入居者様にも非常階段を使い避難して頂いている。しかし、地域との協力体制は築けていない。	消防訓練後の反省点は、その後すぐ話し合いをし、改善につなげている。職員は消火器の使い方も熟知している。通報は消防署、法人、警備会社へと一斉に繋がる。入居者退室には、マグネットの目印をつける。法人隣接の為、協力体制は整っている。新しい施設として間がないので、近隣住民の参加までには至っていない。備蓄は法人でまとめてある。	協力体制が整っているとはいえ、階下を出たすぐに託児所があり、昼間帯は園児達の避難も考慮しなければならない。また、夜間の避難誘導の限界を具体的に確認し、今後は地域住民の訓練への参加を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁の際は他の方に気付かれないように職員同士で連携し速やかにトイレやお風呂場へ誘導している。 排せつ後の確認もコールを鳴らして頂いたり、周りに聞こえないように確認するようにしている。	失禁などで、手が離せない場合は「ヘルプお願いします」の声掛けで統一され個人名は出さない。接遇や個人情報の研修もしている。お風呂は一番の羞恥心に配慮する場面である。なるべく同性職員対応としている。入居時に写真掲示等の場合も含め、同意を頂いている。通路の掲示板には、写真掲示は全くなく、それぞれの居室に貼ってある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	世間話から要望を伺ったり、自己決定できるようにしている。思いなどを表に出されない方には選択しを用意し、その中から選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子、表情や、体調などを考慮し、その時に応じて対応を変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回程度のペースで散髪にきて頂いており、外出の際には職員と一緒に洋服を選ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備を無理のない範囲で行ってもらっている。 食事形態も入居者に合わせてとろみをつけたり、ミキサーにかけたり、テレビを消し、音楽を流して食事が楽しめるように取り組んでいる。	食材が届き、入居者と一緒に食事の準備ができています。部屋にはお腹がすくような美味しそうな匂いが漂っている。入居者全員食欲はあり、職員の同席での見守りや声掛けで楽しい雰囲気のある食事風景である。誕生日は当日皆からお祝いの言葉があり、その月まとめてケーキでお祝いしている。昼食食事前はスムーズに食事ができるように口腔体操をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じて食事介助を行ったり、食事形態を変更して対応している。 月に一回、体重測定を行ない、体重の増減をみている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、ご自分で出来ない方は職員が支援している。 夜間は入れ歯を預かり毎日洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行ない、排泄のパターンの把握に努めている。車椅子の方でも希望があれば、トイレでの排泄を行っている。失禁された際も速やかに対応している。	排泄に関しては、自立している入居者は4名程度である。放ったらかしではなく、それとなく見守りしている。排泄のパターンを知り、明から様ではなく、そっと誘導することにより、リハビリパンツやパットの使用削減にも繋がっている。トイレ内には、右利き、左利き、どちらも対応でき、背もたれがあり、車椅子でも十分な広さである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼の体操や食事以外での水分補給を心掛けている。必要な方には下剤も使用している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて1日を通しての入浴が良いのではないかと見直しを行ったが、皆様から入浴は午前中がいいと要望があったため、午前中で入浴を行っている。時々入浴剤なども使用したりしてリラックスして頂けるように取り組んでいる。	入浴は、月・水・金の午前中である。ホームの決めごとではなく、入居者の希望で午前中となっている。中には嫌がられる入居者もあり、下着交換や清拭で補っており、言葉かけやタイミングを見て入浴して貰っている。一週間全く入浴しないことはない。季節の柚子風呂等は職員が自発的に用意し、楽しい入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢でもあることから、午前、午後に休憩の時間を設けている。夜間浅眠の方や昼夜逆転されたかたは日中の活動を増やす支援に努めている。 各居室に温度計を設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況に応じて、訪問看護師や医師に相談している。 特に薬が変わったり、追加になった際は訪問看護師報告し、観察を強化するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備等その方に合ったことを無理のない範囲で行ってもらっている。レクリエーションも毎日行っており、入居者様から「体操は今日はあるね」と話されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設職員のみでは限界があり、ご家族に協力して頂いており、お墓参りや、なじみの場所や人に会ったり、ご自宅に行かれたり、外泊されることもある。	入居者からの希望はなかなか出ない。職員は五感を刺激する事の大切さを周知しており、天気や入居者の状態を見ながら、言葉かけなど対応を行っている。家族にも協力して貰い、外食やドライブに出かけている。敷地内には、赤く紅葉した木々があり、川には白鷺が何かをついばむ姿も見られ、素敵な散歩コースである。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所の立て替えとなっているが、家族様了承のもと現金を所持されている方もおられる。外出の際の支払いなど入居者様に行なって頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。携帯電話を持たれている方もおられ、家族様と話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った飾りを行ったり、皆様が作られたものや写真を掲示したりしている。	廊下は歩行を防げる物はなく、歩行訓練する入居者もいる。掲示板には入居者の自慢の作品があり、家族の喜びとなっている。浴室の脱衣場にはヒートショックを防げる暖房設備があり、浴槽は左右どちらの麻痺があっても入浴しやすい設えとなっている。トイレも浴室と同じく左右どちらも対応ができ、背もたれもある。臭気もなく部屋全体が明るい。玄関が内と外の区別が分かりにくく、何らかの工夫があればよいと思う。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で過ごせるように席順などを工夫しており、畳スペースでは個別に機械を利用して下腿のマッサージをおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みの物や、使い慣れたものを持って来て頂いている。ベッドの位置なども家族、本人様と話し合い決められている。	掃除の手伝える入居者もあり、職員と一緒に掃除している。衣替えは家族にお願いしている。その人らしい居室で御仏壇や衣紋掛けの持込みがある。危険物、火気以外の使い慣れた物の持ち込みを入居時に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	Pトイレの配置など本人様と話し合い、決めている。 また、調理等もその方に合わせたことを行って頂いている。トイレにボードを置いており使用中かわかるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない